

二〇一九年

三重県かるた協会会報

1. 昇級・昇段者

昇級・昇段	氏名＊学年は昇級時	時期・大会
A級・六段	武居 政敏	11 月
A級・五段	太田 智絵	4 月
	太田 峻友 (院 2)	4 月
	武居 優汰 (大 3)	12 月
B級・三段	井上 幸音 (高 3)	9 月香川
	生川 智彩 (大 1)	12 月大阪
B級・二段	植田 清美	6 月福井
	中野 結奈 (高 2)	12 月京都
	松多 璃子 (高 2)	12 月大阪
C級・初段	植村 智子	1 月高松宮
	笹間 あい (中 1)	1 月高松宮
	鳥羽 朱音 (高 2)	1 月高松宮
	白井 伶奈 (中 2)	1 月高松宮
	伊藤 愛莉 (高 1)	1 月高松宮
	宮崎 祐子	3 月桑名
	岡本 理沙 (高 1)	3 月桑名
	恒川 芽生 (高 2)	5 月大垣
	大橋 里菜 (高 2)	5 月大垣
	村上 茉南 (高 3)	5 月大垣
	阿野田 紫音 (高 2)	5 月大垣
	山田 紀子	6 月福井
	中野 結奈 (高 2)	7 月高校選手権
	磯部 太一 (大 4)	10 月北國
	内山 由香	12 月京都
	秋月 智里 (高 2)	12 月京都
	三浦 秀介 (大 1)	12 月大阪

2. 個人戦大会入賞者

A級	【準優勝】	武居 優冴	(12 月愛知)
	【四位】	太田 智絵	(10 月西日本予選)
B級	【三位】	井上 幸音	(9 月香川)
		生川 智彩	(12 月大阪)
	【四位】	山下 舞子	(1 月高松宮)
		井上 幸音	(2 月奈良)
		井上 幸音	(5 月大垣)
C級	【優勝】	松多 璃子	(12 月大阪)
	【三位】	植田 清美	(6 月福井)
		中野 結奈	(12 月京都)
	【四位】	鳥羽 朱音	(3 月桑名)
		谷川原 滉大	(5 月大垣)
		近藤 真衣	(5 月大垣)
		植田 清美	(5 月大垣)
D級	【優勝】	鳥羽 朱音	(1 月高松宮)
		中野 結奈	(7 月高校選手権)
		三浦 秀介	(12 月大阪)
	【準優勝】	笹間 あい	(1 月高松宮)
		伊藤 愛莉	(1 月高松宮)
		大橋 里菜	(5 月大垣)
		阿野田 紫音	(5 月大垣)
		磯部 太一	(10 月北國)
	【三位】	植村 智子	(1 月高松宮)
		白井 伶奈	(1 月高松宮)
		宮崎 祐子	(3 月桑名)
		岡本 理沙	(3 月桑名)
		恒川 芽生	(5 月大垣)
		村上 茉南	(5 月大垣)
		山田 紀子	(6 月福井)
		内山 由香	(12 月京都)
		秋月 智里	(12 月京都)
	【四位】	岡本 領	(1 月高松宮)
		池田 友結	(1 月高松宮)
		秋月 智里	(1 月高松宮)

D級	【四位】	中野 結奈	(3月桑名)
		太田 双葉	(3月桑名)
		諸岡 雄介	(6月福井)
		梅田 姫奈	(7月高校選手権)
		長谷川 舞	(7月高校選手権)
		金井 雅子	(7月高校選手権)
E級	【優勝】	門脇 万葉	(3月桑名)
		吉永 悠花	(5月大垣)
		羽根 夏鈴	(5月大垣)
	【準優勝】	岩名 幸一	(2月奈良)
		内山 由香	(3月桑名)
		磯部 太一	(5月大垣)
		服部 夕起	(12月京都)
	【三位】	多湖 耀音	(3月桑名)
		大丸 珠美	(3月桑名)
		長谷川 莉瑠	(3月桑名)
		隅田 濤	(3月桑名)
		小島 はるな	(5月大垣)
	【四位】	隅田 濤	(1月高松宮)
		多湖 耀音	(1月高松宮)
もみじ	【準優勝】	岩名 幸一	(3月桑名)
中学生 選手権	【四位】	内山 琴葉	(8月中学生選手権)

（以下、昇段者の内、二十二名から寄稿いただきました所感です。）

六段昇段にあたり　　く徒然なるままにく

久居かるた会　武居　政敏

「三重県かるた協会のルーツは、古く大正時代に遡る。東京の大学に学んだ門倉家茂が、競技かるたを習得して帰郷し、桑名の百人一首愛好家を集めて『桑名若菜会』を大正十二年（一九二三）に設立したのが、県内最初のかかるた会である。」

県内のかかるた会の皆さんで、この一節にピンとくる人はたまた、見たことがあるという人はどれくらいいるのだろうか。

この一節は、「競技かるた百年史」の三重県かるた協会の紹介ページの冒頭である。なにしろ、平成二十年十一月十一日に発行されたものであるので、今となつては知らない人の方が多いだろう。驚くことにこの編集委員長が現在の三重県かるた協会の相談役の大平修身先生である。

今からちょうど二十年前、偶然大平先生に出会い、大平先生の自宅での練習会に毎週通つて、指導を受けたことが、今でも自分の競技かるたの根幹である。書きはしないが、「武居政敏競技かるた二十年史」がかけてしまうまでになつてしまった。今回は、六段を授かることで、諸先輩方から教えていただいた「三重県かるた協会」としての伝統と技術等を少しでも後人の人に伝えていくこと、競技かるたを好きで居続けることを改めて心にとめることができた気がする。選手として、まだまだ若い人にまけるつもりはありません。

今後もしよろしくお願いいたします。

三重県の「かるた」だつてすごいんです。

桑名若菜会　太田　智絵

今回は何か書いてくださいという依頼が来たので、何か書こうと思います。

皆さんは「自分のかるたはどんなスタイルですか？」
「どんな取り方をしていますか？」という質問があつたときにどのように答えるのでしょうか。私はこの質問を

されたときに、まず思い浮かべることは二つあります。一つは「かるたの基本ってなんだろうか」、もう一つは「自分はどんなかるたの取り方をしたいのか」ということです。

一つ目のかるたの基本についてですが、一人一人基本としていることは違いますが、私の中での基本となつているのは「気持的に後ろ向きにならない」という事です。後ろ向きになるというのは、「札を取りに行こうとしても手が出ない」「もう無理だ、取れない」などマイナスな方向になることだと考えています。そうなるとどんな自分が嫌になり、かるたも自分が思い浮かべていた取り方と全然違って、やがてかるたもしんどくなります。そこで私はどんなに相手が強くても、自分の調子が悪くても「一枚でもいいから取ろう」「恰好悪くてもいいから前を向いて試合に臨もう」という姿勢を大事にしています。それでも大会の時や練習の試合でうまくいかない時もあります。ひたすら練習を重ねることも対策の一つかもしれませんが、自分のかるたの「気持的に後ろ向きにならない」という基本を意識して試合に臨むことでしっかりと集中や暗記ができ、自分のかるたを発揮して次のステップにつなげていきたいと思います。

二つ目の「自分はどんなかるたの取り方をしたいのか」についてですが、最近感じることで何も考えずただ単に「速い」「人が多い中、その「速さ」に對抗するためには「取り方」を工夫することが必要かなと思うことです。周りの人に教えてもらうことも大切ですが、必要なことは「他の人のかるたを観察・観戦すること」だと思います。「どのタイミングで取っているのか」「どういう送り方をした作戦なのか」「どういう札の配置なのか」「どういう手の出し方をしているのか」「どういう攻め方・守り方をしているのか」「選手はどの札を意識しているのか」「勝因・敗因はなんだろう」「ミスをした後はどうしているのか」などたくさん見るべきポイントを押さえたうえで、実際に周りの「たくさんの人と意見を交換すること」でいろんな取り方が見えてくると思います。また試合を通じて対戦相手や周りの試合を観ていた人達から様々なアドバイスをもらうことで自分の「長所」「もたくさん見つかると思います。そして「ああいうかるたの取り方をしたいな」という目標ができることで「速さ」以外の新しい取り方も見つかると思います。三重県の選手も十人十色、様々な選手がいてそれぞれの強さや伝統の技を持っているので、たくさん試合を観てたくさん

の技を盗むこともいいと思います。そして「先生」は一人だけではなく、周りにいるかるたに関わる全ての人だと思うので、たくさん三重県の練習会に参加しましょう。私も頑張って参加します。そして新しい強さを作って三重県の皆さんと一緒に切磋琢磨していきますので、試合やご指導をよろしく願います。

「五段」にふさわしい試合

桑名若菜会 太田 峻友

五段の昇段条件は以下の四つのうち、いずれか一つを満たす必要があります。一つ目はA級優勝、二つ目はA級三位入賞三回、三つ目はA級での獲得ポイント累計八ポイント、そして四つ目がA級公式戦通算二十勝です。私は四つ目のA級通算二十勝で五段に昇段しました。私がA級で二十勝を達成したのはA級になって二年目の二〇一七年三月の桑名大会で、その当時は八ポイント獲得で五段に昇段したかったので昇段はしませんでした。しかし大会出場権に関わるということで現在の獲得ポイントとは五ポイントでしたが、二十勝という条件でやむ

なく昇段することに決めました。

今回、村上さんに昇段について書けと言われたので何を書こうか悩んだのですが、このように五段になった私ですが今までに五段にふさわしいと感じた試合もあったのでその試合について書こうかなと思います。

私が紹介する試合は、二〇一八年五月の大垣大会一回戦で対戦相手は長野県かるた協会の高洲慶一六段との試合です。高洲さんとはこの試合以前にも大会や練習会で三回試合したことがあり、戦績は一勝二敗であり厳しい試合になることが予想できました。高洲さんのかかるたの特徴は札一枚一枚を取るのではなく、試合全体を俯瞰して流れに沿って取ることにあります。つまり拾う札、相手に来させる札もありつつ、肝になる盤面の要所所で相手の抜きたい札をきっちり守り、敵陣をきっちりと攻め取る、そんなただ聞いて取るだけのかるたではないのです。

実際試合が始まって、序盤自分がリードを広げることができ9・17で先行することが出来ました。しかし相手は高洲さん、まったく油断することは出来ません。以前試合したときの感想戦で「序盤は札減らし。自分が取りやすい陣形にする為の時間」と言っていたのを思い出し

ました。この局面からが高洲さんの本領発揮……！自分も気を引き締めて中盤戦に挑みました。しかしやはり高洲さんは強く、なかなか抜かせてもらえず、さらにこちらの陣はきつちりと抜いてきます。とうとう6・6で追いつかれてしまいました。終盤張りつめた空気のなか、高洲さんが「やま(ぎ)」を意識しているとわかり、この札が勝負の鍵になると感じました。私は自分の意識が悟られないように札の移動を挟みながら「やま(ぎ)」を送りました。その後「やま(ぎ)」が詠まれ、私は全力で抜きにきました。その結果、高洲さんのダブルを誘発することが出来ました。流れをつかめた私はそのまま畳み掛け、高洲さんも速かった高洲陣の「みち」を抜き、1・3でリーチを決めることが出来ました。このあと高洲さんならどうするか。高洲さんは自陣を守るか？考えた結果、高洲さんは流れを変えるために私の陣の一枚「せ」を抜きに来る、という結論になりました。数枚の空札のあと出た札は「せ」。私は全力でこの一枚を守り、試合を制することが出来ました。予想通り、私の手の近くにはもうすでに高洲さんの手が来ていました。

この試合はただ聞いて取るだけでなく相手の考えを読み取り、「勝つ」為の最善策をどのように打つか、その

ようなことを非常に考えさせる試合になりました。このときの私は今までの四段で速いだけの選手では無く、A級上位層と張り合えるだけの力を発揮できたと感じました。私はこれからこのような試合がいつでもでき、「五段」の名に恥じぬかるたを出来るよう邁進していきたいです。

最後に、私はこの試合もそうですが勝つか負けるかわからないぎりぎりの駆け引きの試合がとても好きです。どちらに軍配が上がるかわからない綱渡りのような試合のスリル感を楽しんでいます。かるたの楽しみ方もたくさんあると思いますが、このような試合のスリル感を求めるのもかるたの楽しみ方のひとつかもしれません。

自分のかるた

久居かるた会 武居 優芽

私は五段を獲得するにあたって必要なA級二十勝の要件をすでに満たしていましたが、A級で三位以上を三回取るまでは、絶対に昇段しないと心に決めていました。この目標を私が設定した経緯は、同期のライバル達が先

に達成したA級三位以上三回で上がりたかったのが大きな要因です。そのライバル達に先を越されて負けてられないと自分の中で闘争心に火がつき、練習があまりできない一年ではありましたがそれでも練習の一試合一試合を大切に、去年の愛知大会で準優勝を果たし目標であった五段に昇段することができました。

自分のかるたの強みは、生粋の攻めかるたです。幼稚園の年長から三重県協の皆様には指導され育ってきたので攻めかるたを貫いています。逆に弱みは、攻め一辺倒のかるたなので自陣を守るのは、いまだに不得意です。しかし、その弱みが霞むくらい攻めをすることが私自身の武器であり強みでもあります。では、どれくらい攻めているのかと言われると敵陣の二十五枚は、全部私が取るつもりでいつも取っています。よく攻めているのに敵陣が出ないから勝てないと言っている人がいますが、私はじゃあ一枚も取りこぼさず敵陣を取れたのかということも聞き返します。それくらいストイックな攻めをしているのは珍しいかもしれませんが私は、いつもその攻めを第一にかるたを取っています。

練習で心掛けていることは、とにかく一試合一試合の練習に目標を設定していることです。例えば、自陣の単

独の三字決まりをいつもより意識しよう、自陣の右上段をいつもより強めに意識しようなど自分の弱点や最近できていないことなどを目標にして練習をしています。その時の目標は、敵陣を二十五枚取るという大前提の下で目標設定をしているので自陣を取ることを練習では目標にしがちです。

最後に今後の目標ですが大きく分けて二つあります。一つは、大学卒業までにA級優勝をすること、二つ目、三重県協で国民文化祭のベスト四、各会対抗の出場を目指して今後も精進していきます。もちろん最終目標は、名人になることです。

三段に昇段して

三重大学競技かるたサークル 生川 智彩

1. 昇級昇段を決めた要因（勝因）

私は大阪大会で三位になり三段に昇段することになりました。十二月は大阪だけでなく愛知大会、京都大会に出場していましたが自分の力を存分に発揮できず、不戦後二回戦で敗れてしまった為、二〇一九年最後の大会

では勝ち負け関係なく純粹にかかるたを楽しんで取ろう
と思いつながら大会に参加しました。準決勝まで進めた理
由としては、勝ちたいという思いに縛られることなく、
自分にかかるたを楽しみながら取れたことがとても大き
いと思います。

昇段を決めた四回戦の対戦相手は一首目が読まれた
時の速い反応からとても強い、怖いと思うような相手で
した。試合開始直後からドキドキしつつも、ミスをする
事なく相手陣をしっかりと攻めることが出来た事が相手
にプレッシャーを与えられたのだと思います。

D級やC級の時に格上と試合をする時に感じた一枚
敵陣を抜いた時の高揚感、倒した時の喜び、そういった
ものを久しぶりに思い出させてくれる心からワクワク
楽しめた試合だったので、またそんな試合ができればな
と思います。

2・自分のかるたの強み・弱み

私のかるたの強みは手が低いことだと思います。相手
の手が先に来ててもその下から札を取るということがよ
くあります。

私のかるたの弱い所は沢山ありますが、そのなかでも
一番弱みは速い札と遅い札の差が激しい事です。強い人

は全体的に速く取り遅い札が無いので、もっと全体的に
速く取れるようになりたいと思っています。

3・普段の練習で心掛けていること

一音目に動き出す意識と札直で取る事を基本的に心
掛けています。

4・将来めざしたいこと（今後の意気込みと抱負）

まだまだ成長できる点は沢山あると思うので弱点を
強化し、現場に満足せず自分の目指す強さを手に入れら
れるよう頑張ります。

諦めなければチャンスはくる

桑名若菜会 植田 清美

練習会の時に加藤先生に頂いたアドバイスの一つで
手帳に書いていつでも思い出せるよう大切にしている
言葉です。

大垣大会では「お手つき」と「次勝てば昇級」と気負
った事、枚数差がついた事で「諦めた」事で惜しくも昇
級を逃してしまいました。

昇級する事ができた福井大会では大垣大会での反省

を踏まえて「気負わず」、今何回戦なのかも考えず、一試合一試合を精一杯やる事だけを意識して挑みました。

「お手つき」もいつもよりは少なかったのもよかったと思います。最後まで自分から試合を「諦めなかった」のが勝因だったのかなと思います。

まだまだ伸び盛り！とは強く言えないお年頃ですが、少しずつでも前進出来るようにこれからも頑張っていると思っています。

最後に、三重県協の皆さん、いつも練習会で対戦して頂いてありがとうございます。練習直後は試合の事、感じた事がうまく消化できずにアドバイスを頂くばかりでこちらからはうまく言葉が出ず、いつも申し訳ないと思っています。

これからもよろしく願います。

かるたについて

伊勢高校かるた部 中野 結奈

高校選手権でのC級への昇級、京都大会でのB級への昇級を決めた主な要因は、負けていても焦らずに、勝つ

ことをイメージしてかるたをしたことだと思っています。

攻めがかるたを意識すること、お手つきをしない・暗記をしつかりするなどの基本的なことももちろん重要だけれど、精神面で相手に負けていたら勝つことは難しくなると思うので、苦しい状況になったときこそ冷静でいることが一番大切だと考えています。

自分はお手つきが多いので、尚更、焦らずに落ち着くことが必要だと感じます。

お手つきが多いのは弱みであるけど、してしまった時に直ぐに切り替えられるのが自分の強みなのではないかとも思います。

最近特に、戻り手・渡り手の練習をしていて、部活動ではできるようになりつつあるので、大会等でもその成果を出すことができるように今後も努力していきます。

また、自分はまだ他のB級の方と渡り合えるほど強くないので、練習会等で色々なことを吸収して成長していきたいと思っています。

二段を取得して

久居かるた会 松多 璃子

こんにちは。高田高校二年の松多璃子です。昨年の十二月二十二日に行われた大阪大会で、B級昇級が決まりました。

昇級を決めた主な要因としては、試合中に自分が失敗した後の切り替えの速さだったと思います。ありきたりかもしれませんが、試合中では反省するのは失敗した後一瞬だけで、スパッと次の一枚を取ることに集中するように終始心がけていました。また、割と気負いすぎずにかかるた自体を楽しんでいたのも良かったのかなと思います。

私は小学校四年生のときに、学校の授業でやったらしどりがきっかけで百人一首に興味を持ち始めました。それからかるた会に入り、なんとかC級昇級までいきましたが、受験のため六年生で一度かるたから離れました。中学の部活も引退し、高校に上がるときにやっと、やっぱり大好きなかるたをもう一度やろうと決めました。

ブランクがあったこともあり、今回の昇級は飛び上が

るほど嬉しかったです。友達もたくさんできて、やっばりかるた復活してよかったなと思います。今のところ、高三の夏の全総文も出場したいと考えています。大学でもかるた続けたいです。

ということ、今後も頑張って練習して結果を残し、大好きなかるたを楽しんでいきたいと思っています。

奇跡の昇級!!

桑名若菜会 植村 智子

1. 昇級昇段を決めた要因（勝因）

無欲だったことでしょうか。

それまで、何度か大会に出ていましたが、一回戦すら突破したことがなかったので、とりあえず一勝を目標に大会に挑みました。

二回戦はとりあえず一勝の目標は達成していたので、楽な気持ちで試合に挑むことができました。

三回戦（昇級戦）に進む前に賞状がいただけるということで名前を書いたことで、“ここまできたら満足”という気持ちになりました。観客から一番遠くの端での試

合だったので集中できたのと、ふと顔を上げたら三重県協の方々が応援してくれているのが見えたので「がんばろー!!」という気持ちになり、二枚差で勝利し昇級できました。

2・自分のかるたの強み・弱み

ズバリ、お手つき!!

お手つきが原因でよく負けます。お手つきをすることに慣れてはイケないことですが、大会でお手つきをしてしまっても「いつもの私やし」と平常心でいられます。

3・普段の練習で心掛けていること

勝ち負けにこだわらず、「この札はこう取る」とイメージ通りに取れるかや、いつも絶対取られてしまう札をどうしたら取れるかを考えています。

4・将来めざしたいこと（今後の意気込みと抱負）

苦手の「な」の札の克服と、決まり字に合わせて取る！

かるたⅡ私の誇り

桑名若菜会 笹間 あい

私は第六十八回高松宮記念杯でC級初段に昇段することが出来ました。かるたの聖地、近江神宮でこのような結果を残せたことがとても嬉しかったです。だからその後は、それまで以上に熱心に練習に取り組みました。私は、周りの子においていけないように、誰にも格好悪い姿を見せないように、必死に練習したつもりです。でも、初段になったら戦う相手はいつも自分より強くて、思うように札に手が届かず、悔しい思いを何度もしました。そして、なかなか勝てない自分が少しずつ嫌になっていました。

そんなある日、学校で百人一首大会をすることになりました。私はそれまで学校の友だちには、かるたをしていることを隠していました。周りには競技かるたを知っている人なんてほとんどいないし、誰も興味を持たないだろう。むしろ私がかかるたが好きだと言ったらみんなに引かれるのではないか。そんな考えがあったからです。でも、私はもう隠し続ける必要性をあまり感じていなかったもので、いつもの通りのスピードで取ってみました。もちろん、かるたを知らないみんなより速く札を取るこことが出来ました。するとみんなに驚かれ、褒められもしました。このとき、私はふと気がついたのです。私には

かるたしかない、かるたは私の誇りなんだ、と。
それから私は、負けることも数え切れない程あるけど、それを恐れずに全力で試合に挑めるようになりました。それに今は、かるたに出会えて本当に良かったと思っています。この気持ちを絶対に忘れず、今後もかるたと真剣に向き合っていきたいと思います。

初段を取得して

鈴鹿玉垣かるた会 白井 伶奈

1. 昇級昇段を決めた要因（勝因）

最後の一枚まで集中して、お手つきをしたりしても「次は絶対に取る」という気持ちで試合をしたことです。

2. 自分のかるたの強み・弱み

私のかるたの強みは、前半相手に押されていても、後半に追い上げる事が出来ることです。

弱みは、試合の初めの方は、あまり速く取れないところです。

3. 普段の練習で心掛けていること

一度、お手つきをすると、しばらくお手つきが止まら

なくなるので、なるべくお手つきをしないように心掛けています。

4. 将来めざしたいこと（今後の意気込みと抱負）

一試合一試合を大切にして、頑張っていきたいです。

初段を取得して

桑名高校競技かるた部 伊藤 愛莉

私は第六十八回高松宮記念杯で準優勝をして初段を取得しました。はじめから会場に先輩も同輩も誰もいなくて不安だったけど、昇段戦の時にこの試合に勝ったら昇段ということを知らなかったの、ある意味リラックスして試合ができました。おかげで昇段したと分かった時はとてもビックリしました。

いろんな方と試合をさせていただいてよく「めっちゃメンタル強いなあ!」と言われます。自分でもどの局面で自分の気持ちが強くなれるのか全然わからないんですが、メンタルが強いことが私のかるたの強みだと思います。逆に決まり字までしっかり聞かずに札に触ってしまうお手つきが増えてきたので改善しなければいけな

いなと思っています。そのため普段の練習では決まり字までしっかり聞く事と、できるだけ札押しではなく札直で札に触れる事を意識しています。

そして私は桑名高校競技かるた部の部長になってから半年以上がたちました。特別にかかるたが上手いわけでもなく、みんなのためになることを進んでできるわけでもなく、むしろ部員に迷惑ばかりかけてしまうダメダメな部長です。でもそんな私を温かく包んでくれる部員のみんなが大好きです。先輩はもう引退されてしまいましたが、本当に優しくて、たくさんアドバイスをくださるし、同輩はとにかく面白すぎます。後輩はみんな私よりしっかりしてて、全員が未経験でかるたを始めたのに、今ではとても強くなりました。最近はみんなが部活でかるたを楽しくしてるのを見るのが私の幸せでもあります。私たちの引退も徐々に近くなってきましたが、私自身も早くB級に昇段して、大好きなみんなとの楽しい思い出をたくさん残したいです。

周りの人へ、感謝

宮崎 祐子

「今週は、かるたの練習に行けるから、色々がんばろう。」

練習に参加できる週は、そう思つて一週間を過ごしています。毎日、次々と押し寄せてくる仕事と家事、育児で、なかなか練習ができず焦ることもあります。そんな私にとって、「かるたができる日」は、とても貴重で幸せな日です。

毎回の練習で、一戦一戦を大事にして何か一つでも学んで帰ろうということを意識しています。

今回、念願のC級になることができました。大会の日は、昇級をあまり意識しないようにしました。県外の大に出場するのが難しい自分にとっては、三重県での大会はとても有難いものです。そんな貴重な日に昇級を意識しすぎてはダメだと思い、とにかく目の前の試合に集中することを考えました。試合中は必死で暗記を繰り返して、一音を聴くようにしました。一試合でも多く出たい、その思いで全力でかるたに向かっていたのだと思います。結果、昇級することはできましたが、たくさんの課題が残っています。特に、今、身に付けなければいけないと思うのが「戦略」です。速く取るだけではなく、自陣の札を使って試合を組み立てていく力がとても弱い

ので、今後練習を重ねていきたいと考えています。

最後に、私のかるたを支えてくれているたくさんの人への感謝を、日々忘れないようにしたいものです。「練習に行っておいで。子どものことは見とつたるから」と背中を押してくれる夫や「ママ、がんばれ!」と応援してくれる子どもたち、稀にしか現れない私に優しく声をかけてくれるかるた関係の皆様、そして温かく厳しく教えてくれる先生。周りにいるたくさんの人たちのおかげで、これまで練習を続けることができました。今後も、一戦一戦を大事にして、練習に励んでいきたいと思ひます。

初段へ昇級して

桑名高校競技かるた部 岡本 理沙

私は高校に入つて初めて競技かるたに触れ、学校の競技かるた部に所属し、それからかるたを続けています。

私が初段へと昇段したのは第七十七回全国競技かるた桑名大会のD級です。わたしは一試合でするお手つきの回数がとても多いことが弱みです。一方、お手つきや

相手との枚数差があつてもあまり焦らず自分の試合ができることが強みだと思つています。この大会で私が昇段できたのは、試合の途中で焦らず冷静にかかるたの試合ができたからだと思ひます。

普段の練習で気をつけていることはしつかり音を聞くことです。私はあまり音を聞かず手を早く動かし始めてお手つきをすることが多いので、お手つきを減らすために音を聞いてから手を出すようにタイミングを試合中に気をつけています。

これからの目標はもっと素早く正確なかるたをとるようにすることです。そして、次昇段するためにもこれからはもっと積極的に練習や大会へ参加していきたいと思つています。

初段を取得して

桑名高校競技かるた部 恒川 芽生

運命戦、全神経を集中させ、張り詰めた緊張感の中で最後の一枚を取ったときの感動は今でも忘れられませんが、私が昇段戦で取った札はまた、私の親友も取つてい

ました。昇段の決め手となったのは、大好きな先輩や友達からの応援と、昇段戦まで残った親友と一緒に勝ちたいという強い思いだと思います。その頃は周りの同級生が次々と昇段していくことへの焦りがあり、大会前は自分の思うようなかるたが取れず不安でした。しかし、勝ち上がるにつれて応援してくれている人たちに良い報告をしたいという一心で、目の前の一枚一枚に集中できていたと思います。

私の課題として、まだまだ理想の攻めがでるたができていないことが挙げられます。以前A級選手と試合させて頂いた時、「攻める」ではなく「狙う」かるたになつていと指摘してもらいました。それから、短くなった決まり字の札をより強く意識したり、暗記法を変えたりいろいろ試してみても改善していません。また、普段の練習では試合前に目標を決め、それを達成するように心がけています。

今後は自分がB級に上がるのはもちろんですが、桑高かるた部の全員が強くなれるよう、後輩のためにも頑張りたいです。去年は選手権に出場できなかったのですが、今年こそは大好きな仲間と全国の舞台で戦うために、個人としても団体としてももっと強くなりたいです。

初段になりました

桑名高校競技かるた部 大橋 里菜

1. 昇級昇段を決めた要因（勝因）

私の昇級戦は運命戦でした。恥ずかしながら、自陣が一枚になってから一枚も相手陣の札を抜くことが出来ず、追い上げられた運命戦でした。その時は気づいていませんでしたが、後方で同級生も運命戦になっていて、個人戦ですが団体戦の札合わせのように二人とも「ひさかたの」の札を持つていて、二人とも昇級出来ました！さらに！数年前の同じ大会で、同校の先輩が初段に上がった時の昇段戦も運命戦で、同じ「ひさかたの」が出たのです！これを知った時はとても驚きました！皆の運で成り立った昇段戦でした！！（ちなみに一試合目も運命戦勝ちでした。会場内で出るように祈ってくれた仲間に感謝です！）

2. 自分のかるたの強み・弱み

好きな札は取らせない、私が取って流れがこっちに来るようにする。これは私のかるたの強みだと思います。逆に弱みは、好きな札に気を取られて他の札への反応が

遅れてしまうことです。無意識に取れるようになりたいです。

3・普段の練習で心掛けていること

三、四試合目で疲れてきた時に、「これは昇級戦だ。」という気持ちを持って臨んでいます。

4・将来めざしたいこと（今後の意気込みと抱負）
実力をあげてB級になれるように頑張ります。

初段を取得して

暁学園かるた部 阿野田 紫音

この度の初段取得において、今回の勝因は集中力の持続にあったと考えます。持続する集中力を身に着けるために普段の練習では一度も集中を切らさないことを意識しています。

私のかかるたの特徴は、前述の通り、集中し続けることにあると思います。ただし、過度の集中では長続きさせることが難しく、次の試合以降に影響を及ぼすと思うので、あまり集中し過ぎず、その一定の集中を保つことが大切だと考えます。そのため、普段の練習では極力狙い

札を作らないことを念頭に置いています。

こういったようにかるた競技を通して集中力、瞬発性が養われると感じており、それがかるたをしていて最も良かったことだと考えます。

また、今回の昇段において、無段者であった頃は、段取得のために一心不乱に練習をすることを考えていましたが、段を取得し、初段の大会への出場を経験することで「有段者としての矜持を持つことが大切だ」とかるたに対する考え方の変化を深く実感しています。

直近の課題として、暗記の方法に問題を感じていて、決まり字順に覚えていくより、五十音順に覚えていくことが必要だと感じています。暗記の仕方に当然優劣は無いものの、五十音での暗記は母音、子音を意識しやすくなり、より速い取りへと繋がるためです。

今後は、暗記により一層力を入れ、囲い手の抜き方や渡り手を身にしみ込ませ、分かれ札や大山札の取得率を伸ばしていきたいと思っています。

大切なもの

桑名若菜会 山田 紀子

この度、寄稿依頼をいただき、改めて自分にとって「かるたで大切なものとは何か」立ち止まり考えるとても良い機会をいただきました。

つい昨夜まで、かるたの目標や夢を見失い迷いもがいている私に道標を示して下さった先生。

なかなか勝てず悔しい思いをしている時、いつもそばにいて話を聞いてくれる仲間。時に本音でぶつかり合い、切磋琢磨し高め合える仲間。

かるた以外でも、つらい時にこそ力となる先生からの心に残るお言葉の数々。

今年で四十六歳になりますが、先生と仲間とのこの出会いは私の人生においてかけがえのない大切なものです。

その存在は大会でも大きな強みとなります。

六月二十九日、福井大会D級で三位入賞し、初段に昇級しました。この福井大会は仲間と共に参加することができました。仲間の一人は前月の大会で昇段。もう一人と私は不調な日々が続き、不安を抱えて当日を迎えていました。ですが、同じ会場で仲間と共に戦っているということは、とても心強く支えとなりました。試合中は厳しい場面もいくつかありましたが、仲間も一緒に戦って

いると思うと不思議と落ち着き、勝ち進めることができました。準決勝で敗退しましたが、会場を出ると仲間が待っていて、お互いの昇段を知り、心から喜び気づけば抱き合って泣いていました。お互いの苦悩を知っているからこそ、その喜びは格別です。仲間と同時期に昇段し、喜びを共有できたことは、とても幸せなことです。

そんな先生と仲間と共にこれからもかるたができれば、こんなハッピーなことはありません。かるたができることに感謝し、いつかまた結果で恩返しができるように精進してまいります。

初段を取得して

三重大学競技かるたサークル 磯部 太一

かるたを始めたのは春の頃で、その年の末にこうして所感文を書かせていただくことを嬉しく思います。

初めは好奇心のみで足を踏み入れた世界でしたが、すぐにその卓越した競技性に魅入られ週に何本もかるたを取るようになりました。そして少し慣れてくると上手に取りたくなり、勝負に勝ちたくなる欲張りな性分です。

明らかな経験値の差を埋めるべく、とにかく多くのお手合わせができるよう工夫して練習に足を運び、少しはその甲斐があったのでしょいか、十月の北國大会の結果を受けて初段をいただくことができました。子供の頃から団体競技ばかりして育ってきた僕にとって、個人競技で少しづつながらも上達していく感覚は新鮮で気持ちのいいものでした。

実は昇級以来、なかなか各練習会に伺うことができません。来年以降は本分である学業が忙しくなるため、更に満足な時間が確保できなくなります。もう一年でも早く始めていたらと思うと少し悔しく感じますが、この一年間楽しくかたるたを取ることで巡り合わせは幸運でした。

またこれまで、かるたを通じて知り合ったたくさんの方々にお世話になりました。直接届けるのが筋ではありますが、伝え切れていない分があまりにも多いためここに代えて挨拶させていただきます。本当にありがとうございます。これからもよろしく願います。

京都で昇級

鈴鹿玉垣かるた会 内山 由香

1. 昇級昇段を決めた要因（勝因）

D級のほとんどの大会は、一クラス三十二人枠で三回勝てば昇級ですが、この京都大会は一クラス六十四人枠で、四回勝ってやっと昇級、という条件でした。

四回も勝てるのか、と不安でしたが、せっかく京都まで来たので、一回でも多く試合をしようと思いました。

一回戦目は、ラッキーなことに不戦勝。二回戦目は順調に勝ちました。

三回戦目は、取って取られての繰り返しでしたが、最後落ち着いて集中して一音目を聞き、二枚差で勝ちました。

次はいよいよ四回戦目、昇級戦。さすがに緊張しました。序盤、負けていたのですが、途中から巻き返し、気が付いたら私の方が優勢になっていました。

このまま行くぞ！と思った時に、まさかのダブ。終盤でのダブは痛恨のミスです。いつもの玉垣の練習では、このままズルズルと負けてしまうのですが、なぜかとして

も落ち着いていて、ミスした分を一枚一枚取り戻して、運命戦になりました。

私の札は「ゆら」。何枚か空札が続き、次は絶対に「ゆら」が来るぞ！と、すごく自信があり、集中して読手さんの読みを聞きました。私の予感は的中。

「ゆら」が読まれ、勝つ事が出来ました。

ミスをして焦らずに落ち着いて、読みに集中出来たことが、何よりの勝因です。

2・自分のかるたの強み・弱み

私のかるたの強みは、自陣左下段は速く取ることが出来ます。

弱みは、お手つきが多く、お手つきが始まると焦って止まらなくなります。

3・普段の練習で心掛けていること

お手つきをしないように、心掛けていますが、お手つきをしてしまう苦手な札は、あまり覚えられないようにしています。

4・将来めざしたいこと（今後の意気込みと抱負）

B級公認読手を取りたいです。

読手講習会を受講した時に、『B級公認読手の条件は初段以上の者』と知って、何としても早く初段を取りた

いと思いました。

念願かなって初段を取得出来たので、B級公認読手を目指して、頑張って練習します。

初段取得について

桑名高校競技かるた部 秋月 智里

私が今回初段になれたのは、いつもの他の大会よりリラックスして試合が取れたことです。今までの大会は力が入りすぎて、序盤からお手つきばかりしていました。今回はあまり深く考えずに大会に臨みました。これで負けてもまだ大会はあるから大丈夫だろう！と思っていました笑。結果昇段戦でも焦らずに済んで束勝ちできました。もう一つは一試合目が不戦勝だったことです。いつもはあまり運がないので、全然不戦勝には期待していませんでしたが、この日は引きが強く驚きました笑。私は万年文化部で体力に自信がないので、三試合勝利で昇段できるようになったのは大きかったです。

自分のかるたの強みは札を払う手の位置が低いような気がします。その代わり自陣の取りの時に敵陣をよく

引っ掛けてしまします。もったいないミスなので、早く改善したいです。また、札を払う時に力んでしまうことも改善したいです。

今後はまだ初段になりたてなので、大会に参加してまずは一勝したいです。そして段位をあげれるように頑張りたいです。

成果

三重大学競技かるたサークル 三浦 秀介

1. 昇級昇段を決めた要因（勝因）

いつも通り、五枚差までなら終盤で巻き返せる理論と、相手がお手をしたら一枚ワンテンポ速く取りに行つてよい理論で全ての試合に臨んだ。自分が正しいと思つていることを全てやった。

あと、服装。緊張しないように、場の雰囲気になじめないようになんて服で試合をした。

三試合目、昇段戦では無駄に緊張しないで自分が望む展開にできたことが勝因である。あと一枚のところであと終わらせたいと思つてお手をした時は焦つたが、すぐ

に気持ちを立て直せたので、隙を突かれることなく終えられた。

2. 自分のかるたの強み・弱み

強みや、弱みは特に考えたことがない。無くて良いと思う。

3. 普段の練習で心掛けていること

普段の練習では、まだ読まれていない札は何か、を記憶しながら取ることを心がけている。これがしっかりできれば「終盤まで耐えれば勝率が高い人」になるのではないかと思う。

4. 将来めざしたいこと（今後の意気込みと抱負）

目標は楽しいかるたができる人。今も十分楽しむことに重点を置いているが、もっと楽しくかるたがしたい。送り札を自由に操れる人、つまり場況を操れる人になれば、楽しいかるたができると思うので練習から取り入りたい。

3. 団体戦の記録

成 績	参加選手	時期・場所	大会名
伊勢高が三重県代表 として出場 Aブロック1回戦 2勝3敗 敗退 (対：洛南高)	井上 幸音 鳥羽 朱音 梅田 姫奈 中野 結奈 長谷川 舞 土屋 実葵 竹内 愛海 西河 沙月	7月、 近江 神宮	高校 選手権
予選リーグ Fブロック0勝3敗 (予選敗退) 対愛知 2勝3敗 対福岡 0勝5敗 対東京 1勝4敗	内山 琴葉 植村 涼寧 三平 希乃花 近藤 真衣 白井 伶奈 内山 采音 森田 陽奈	8月、 東京	中学生 選手権
予選リーグ Fブロック1勝2敗 (予選敗退) 対石川 1勝4敗 対沖縄 4勝1敗 対広島 1勝4敗	山下 舞子 井上 幸音 梅田 姫奈 大橋 里菜 岡本 理沙 金森 マリ 村上 茉南 松多 璃子	7月、 佐賀	高校総合 文化祭
Bブロック3勝0敗 (優勝) 対埼玉 2勝1敗 対東京 2勝1敗 対群馬 3勝0敗	加藤 誠 太田 富夫 中西 明子 岩名 幸一	10月、 和歌山	ねんりん ピック (協賛 イベント)

予選リーグ Aブロック 0勝3敗 (予選敗退) 対栃木 0勝5敗 対奈良 0勝5敗 対千葉 2勝3敗	武居 優冴 太田 峻友 太田 智絵 武居 政敏 桐嶺 真琴 浅野 不二子 井上 幸音 加田 一帆	11月、 新潟	国民 文化祭
Bブロック 0勝4敗 (ブロック5位) 対福井 2勝3敗 対奈良 1勝4敗 対滋賀 2勝3敗 対京都B 2勝3敗 9位順位決定戦 対鳥取 5勝0敗	山下 舞子 大橋 里菜 岡本 理沙 松多 璃子 谷川原 滉大 伊藤 愛 梅田 姫奈 中野 結奈	11月、 徳島	近畿高校 総文祭

4. 新規加盟団体

新たに、左記団体が三重県かるた協会に加盟しました。

・三重大学競技かるたサークル（代表者…生川 智彩）二〇一九年四月付け

発行日 二〇二〇年二月五日

発行行 三重県かるた協会

発行責任者 村上 智 洋